

アラスカの国立公園で、熊に気をつけるには



キャンパーが訪れるアラスカの国立公園は、熊の生活圏でもあります。海岸沿いの公園の場合、浜辺、海と雑木林間の場所、森もしくは険しい崖に熊が出没します。熊がこうしたエリアを好む理由に、熊の餌となる植物が豊富に存在すること、移動するための道として便利なのが挙げられます。一方、キャンパーにとってもこれらのエリアは料理をするために恰好な場所であり、カヤックによる移動に便利な場所です。内陸の公園もまた熊の生息地であるため、キャンパーは熊の生活圏を尊重することが重要です。

キャンパーが熊と遭遇する可能性はありますが、その場合は慌てず冷静に、以下に示す熊の行動学に詳しい専門家のアドバイスに従ってください。そうすることで、熊のためにも、あなたのためにも良い結果に繋がります。

公園によっては、観光客向けの案内所で、キャンパーにオリエンテーションへの参加を義務付けています。このオリエンテーションでは、パークレンジャーが、熊が頻繁に出没したり、人が熊に遭遇した事例が最近起きたためキャンプが禁止されているエリアについて説明します。もし訪れた公園で、熊に注意するためのオリエンテーションが行われていない場合は、このパンフレットをよく読み、熊の生活圏で安全にキャンプを行う方法を学んでください。熊からの危険を回避するための最新情報については、公園のスタッフにお問い合わせください。奥地へ入ったら、そこからは自己責任です。公園によってはキャンプの許可を取得することを義務付けていたり、熊が開けられない食料貯蔵用容器(BRFC)を無料で支給しています。

表紙写真 © ロバート・サビン

熊の存在を示すサインと、入ってはいけないエリア

アラスカの国立公園でキャンプやハイキングをする場合は、「熊に注意すること」が重要です。熊の存在を示すサインは、容易に見つけることができます。熊の生息を示すサインが最も少ないキャンプ地を選び、熊が狩りを行う場所に足を踏み入れないでください。熊の存在を示すサイン：

熊の糞、もしくは足跡。新しいものや、量がおびただしい場合は、特に気をつけてください。

熊が頻繁に通る道が出来ている。熊は、湖畔や山の尾根など、往来がやさしい道を選びます

熊の毛や爪痕が付いた木や、木の幹は、何度も熊の爪研ぎに使用された可能性があります。

大きな穴のあるエリアは、熊が狩りを行う場所、昼寝をする場所である恐れがあります。

鮭のいる川は避けるように！ 鮭は熊の好物です。また鮭のいるような急流では、大きな川音により、熊の気配に気づきにくい場合があります。

険しい崖のある狭いビーチ、もしくは特に密集した雑木林では、熊は安全に通ることができません。満潮には、熊が、あなたのキャンプ地と満潮線の間を通り抜けられるほどのスペースはないのです。

あなたが熊と遭遇したくないのと同様に、熊もあなたに遭遇したくないのです。視界が良くない場所に進入することは避け、テントを出る時は物音を立てるようにしてください。

ちょっと考えてみてください。熊は、自分がキャンプや料理をしている場所に容易に入ってくるのでしょうか？



写真 © エンジン・ジョージ

料理と食料の保管

使用しない全ての食料および化粧品は、熊が開けられない食料貯蔵用容器コンテナ(BRFC)に入れておいてください。カヤックやハイキングで食べたスナック類、包装類、リップクリーム、日焼け止めクリームなどは、テントに入る前にこの貯蔵コンテナに入れてください。カヤックの中に一晩中食べ物を入れておくのは良くありません。夜は、貯蔵用容器をしまい、動物の通り道に調理器具を置かないようにしてください。(満潮線にある海岸の公園の場合)テントから100ヤード(約91メートル)以上離すか、密集した雑木林、岩の後ろに隠してください。

あなたのテントがある場所や食料の貯蔵場所から100ヤード(約91メートル)以上離れた場所で調理や食事をしてください。そのエリアを移動する熊に遭遇することがないように、遠くまで見渡せる場所で料理をするように心掛けてください。



国立公園サービス提供の写真

海岸の公園でキャンプを行う場合は、海軍堆積線や海岸線よりも下位にある潮間帯(満潮線と低潮線間の海岸領域)ですべての食料を調理して、食事をするようにしてください。出来るだけ海岸線の近くで調理し、食事をするようにしてください。料理の匂いや食料の破片を次の潮流によって流すためです。

熊が突然現れるかも知れないので、全ての食料をすぐに貯蔵容器に詰め込める準備を整えておいてください。荷物は一箇所に固めて置いてください。荷物が占めるスペースを最小限にしてください。常に、「熊が自分たちに近づいてくる余地があるか」考えるようにしてください。また、「全ての荷物を素早く移動させることができるのか」についても考えるようにしてください。

熊を妨害をしたり、追い払うことはやめましょう。

あなたが熊を発見し、熊があなたの存在に気づいていない場合は、熊から見えない所まで移動退却して進路を変更してください。そのエリアから出るか、もしくは熊に近づいたり、邪魔したりしないようにして、安全な場所から熊を静かに観察してください。あなたが熊の邪魔をすると、熊が態度を変えることは明らかです。熊は食べるのを止め、顔を上げ、耳を澄ませながら空気を嗅いでいるときは、あなたがどこにいるのか探しているのです。そんな時は、あなたが熊に接近しすぎているのです！ 熊は、1年に消費するカロリーと脂肪を、6ヶ月から8ヶ月の間に摂取します。邪魔しないようにしてください！ 熊は、100ヤード(約91メートル)以上離れていれば人間の存在も我慢できるようですが、これは個々の熊の性質や状況によって異なります。熊の行動に注意し、彼らの食事や移動を邪魔しないように、彼らの権利を尊重してあげてください。望遠レンズおよび双眼鏡を使用してください。熊が邪魔されることなく、あなたのキャンプ地を通り抜けることができるようにしてあげてください。熊があなたの存在に気づいたと分かっても、驚いたりせず、全ての荷物を管理し、熊が安全に通過できるようにしてあげてください。あなたはただ、自然の中でこの驚異の生き物を安全に観察する機会を得ただけなのです。



写真 © ハン・ジョージ

近くで見よう、写真を撮ろうとして熊を追いかけたり、熊の邪魔をしたりしないでください。これは陸でも、船上からでも同じです。

荷物が壊されるリスクを最小限に抑えましょう。



表紙写真 © ロバート・サビン

テントを立てる場所を選ぶ際には、熊が頻繁に出没エリアは避けましょう。熊の移動ルート(例えば、川ルートおよび通り道)、潮間帯ではキャンプをしないでください。

荷物は置いたまま離れないでください。これにはテント、衣類、パッド、水筒なども含まれます。熊があなたのキャンプ地に入らないように、簡易式の電気フェンスを使用することも考慮してください。

荷物は一箇所に固め、しっかりと管理してください。海岸地域では、浜辺での占有面積を最小限にしてください。もう一度、考えてください。「熊が自分たちのキャンプ場所に近づく余地はあるか？」アドバイス:夕食を作った後でテントを設置し、朝食の前にテントを畳むようにしてください。これは、調理中やカヤックの準備中に、潮間帯で全ての荷物を一箇所に固めて置くため、またはあなたのすぐ近くに置くためです。

熊が好奇心をあらわにしたら、あなたも派手に反応してください。熊が近づいたら、音を立てて、腕を振るなどしてください。立ち上がってください！ 荷物を熊に取られないようにしてください！

熊と遭遇したら、どうするか？



安全を確保するための基本的なアドバイス

アラスカに存在する熊の生息地を訪れる観光客が増えるにつれ、人間と熊が遭遇する頻度も増えています。人間が熊に出会っても、人間が負傷したり、死亡したりするケースは稀です。熊が死亡するケースが圧倒的に多いからです。2、3の基本的な注意事項を守るだけで、事故を防ぐことができるのです。

警戒を怠らない

熊の生息地では常に警戒を怠らないで下さい。聴覚、視覚、嗅覚を使って、熊の存在に注意を払ってください。熊の存在に気づくのが早ければ早いほど、両者が適切な対応を取れる時間が持てるのです。

隠れないで、音を立てるようにしてください

熊との突然の遭遇は、危険で恐ろしいものです。しかし、熊に遭遇する可能性を低くすることはできます。見通しのよい、広い場所を移動すれば、熊と突然遭遇することはありません。歩く時は音を立ててください。特に密集した雑木林の中を歩くと、先が見えない角を曲がる時には、声を出したり、手を叩いたり、歌ったりしてください。風が多い日、川音が大きい急流、浜辺の近くでは周囲の音が聞こえないので、特に注意してください。可能ならば、風上を歩いて移動してください。

安全な人数

グループが大きいほど、熊に襲われるリスクは少なくなります。特に見通しが悪い場所では、グループで固まるようにしてください。

熊を避けましょう

可能ならば、熊を避けるためにコースを変更するか、そのエリアから静かに出てください。熊には絶対近づかないで下さい。これはボートやカヤックに乗っている場合も同様です。熊に近づくことは危険です。熊にストレスを与え、動揺させるため、熊が襲ってくる可能性が増します。

食料を適切に保管しましょう

すべての食料と匂いのする物は、常にしっかりと管理してください。キャンプ中は、キャンプ内を清潔にして、食料を適切に保管してください。

熊と遭遇したら、報告しましょう

もし熊と遭遇したら、直ちにパークレンジャーに報告してください。これは他のキャンパーへの警告に繋がり、必要に応じて公園のスタッフが適切な対応を取ることができます。



写真 © ナリロー・D・ブリアン

熊と遭遇したら、どうすればよいか？

まず状況を判断しましょう。熊はあなたを見えていますか？ 見ていないなら、熊から離れましょう。それで問題ありません。

遭遇時の、熊の非防衛行動

• 熊があなたの存在に気づいた場合、あなたを見ているも見えていなくても、あるいはルートに沿って歩いているだけならば、これは熊の非防衛行動と考えられます。

ハイキングもしくはカヤックで移動中に、非防衛行動を取る熊と遭遇したら？

• 進路を変えて、熊から離れてください。熊から離れ、熊の行方に気を付けてください。

キャンピング、料理、食事の最中に、非防衛行動を取る熊と遭遇したら？

- すべての荷物を、しっかりと管理してください。
- 熊があなたの存在に気づいているか確認してください。熊に静かに話しかけ、立ち上がってください!
- グループでいる場合は、熊のルートを塞がないように、一箇所に固まってください。熊があなたに気を取られていない場合は、熊が安全に通過できるようにしてあげてください。
- 熊が近づいてきたり、あなたの存在に気を取られている場合は、一箇所に固まり、叫んだり、大声を上げたり、腕を振って防衛行動を強化してください。熊から逃げないで下さい。エアホーンを鳴らしたり、鍋やフライパンを叩いて音を立ててください。
- 熊が退散すれば、問題ありません。
- 熊が近づいてくるようならば、立ち上がって、毅然とした態度を保ちましょう。
- 熊が接近してくるようならば、立ち上がって、毅然とした態度を保ちましょう。自分を大きく見せてください。大半の非防衛的な接近では、熊があなたに触れてくることはありません。
- お持ちならば、今こそ護身用の催涙スプレーを使う時です!
- 熊が攻撃してきたら、積極的に反撃してください! 捕食攻撃なので、熊の顔、目、鼻を蹴る、殴るなどしてください。

遭遇時の、熊の防衛行動

• 食料を守る場合や、母熊が子熊を守る場合に、熊は防衛行動に出ます。防衛行動はいつも、予期しない近距離での遭遇の場合に起きます。

• 防衛行動には、鼻を鳴らす、息を吹きかける、アゴを鳴らす、突進するなど行為が含まれます。

- このような行動に気づいたら、動きを止めて、立ち上がってください。安全を確保するには、熊の気持ちを沈めなければなりません。
- 熊に静かに話しかけ、熊がじっとしたら、斜め後方にゆっくりと退いてください。
- そのエリアから出る時も熊を観察し続けてください。
- 熊が再び向かってきたら、立ち止まって、熊に静かに話しかけてください。
- 熊が進んできても、落ち着いて立ち止まっています。多くの場合、熊があなたに触れてくることはありません。お持ちならば、今こそ護身用の催涙スプレーを使う時です!

防衛行動の場合に、熊が攻撃してきたら？

• ヒグマの場合、死んだ振りをしてください。うつ伏せに横たわってください。両手は首の後ろで固く握り、足は開いてください。こうすれば熊があなたの身体をひっくり返すことができません。熊がその場所を去るまで動かないで下さい。攻撃が長く続いたり、あ

- なたを餌食にしようとした場合は、積極的に反撃してください! この場合、熊の行動は防衛行動から、捕食行動に変わりました。
- ツキノワグマの場合、死んだ振りはしないでください。積極的に反撃してください!
- ツキノワグマの場合、死んだ振りは絶対にしないでください! ツキノワグマが行う攻撃は多くの場合、捕食行動です。
- あなたのテントに侵入しようとする熊とは戦ってください!!

左: 立ち上がっているヒグマ。写真 © ロバート・サビン



写真 © ナン・エン・グ